

心に、約40回の大型クルーズ船寄港が予定されていることから、本年のまち歩きマップの配布、スタンプラリーの実施、歓迎ビラの掲示などに加えて、クルーズの乗船客を街なかに回遊させる更なる仕組みづくりに取り組む。

これに加え、街なかで新たな開店や店舗拡大に意欲を持つ人たちがチャレンジできる環境を整えていきたいと考えており、これらの意欲ある積極的な取り組みに格別の支援をお願いしたい。

#### 4. 港の賑わいを全体の繁栄に

京都舞鶴港は、その名の示す通り舞鶴市だけのものではなく、日本第2の経済圏である阪神地域を背後地に持ち、近畿で唯一の日本海側の拠点港として、国において重要港湾に指定されるなど、まさに京都にとって世界に開かれた海の玄関口である。

これまで、京都舞鶴港の機能強化が図られ、高速道路ネットワークが完成するなど、港を取りまくインフラ整備が着々と進んでおり、また、官民一体となり積極的なポートセールスを展開してきたことで、京都舞鶴港におけるコンテナ取扱量は、この5年間で2倍以上と大幅に増加した。

更に日韓口を結ぶ国際フェリー航路が開設されるなど、毎年多くの大型クルーズ客船が寄港するようになった。港の賑わいを地域全体の繁栄に繋ぐために、この流れ

を更にスピーディーかつダイナミックに展開できるように、引き続き積極的なご支援をお願いする。

#### 5. エネルギー問題に正しく対処

長期にわたり、電気料金の高止まりと安定的な電力確保の見通しが立たない異常な状況が続いており、電気代の価格転嫁が難しい私たち小規模・中小企業の経営にとって大きな打撃となっている。

国民の生活を守り、経済の成長を支えるためには、省エネ・再エネの推進と共に、原子力発電を含む多様な電源構成（ベスト・ミックス）の維持が必要である。原発の停止による慢性的な電力不足を回避するため老朽火力発電所を稼働させている現状や、これによるエネルギーコストアップが日々国富を棄損し続けていることを直視し、原子力規制委員会により安全性が確認された原発については、権限と責任を持つ国において、関係する地域と住民との合意形成などを図り、再稼働すべきである。

中長期のエネルギー確保のあり方については、安全第一はもとより、国の成長や豊かな国民生活の実現を目指した、供給の安定性とコストの両面で満足できる、現実的かつ合理性のあるエネルギー戦略を構築すべきであり、安全性を確認した原発の早期再稼働を含め、安定した電源確保の取組みを忘れてはならない。

#### 舞鶴市への要望活動

昨年12月27日、小西会頭、安達副会頭、今安副会頭、一盛副会頭、そして瀬川専務理事の5名が舞鶴市役所に多々見市長を訪ね、「要望書」と当所10部会から出された意見等90件の「部会別要望リスト」を手渡しました。当日は、多々見市長のほか、砂原産業振興部長、新宮産業創造室長、竹山商業振興係長が陪席され、当所から要望の趣旨を説明し、市長からは市政の状況や目指すべき方向性・取り組み状況などについて説明を受け、続いて率直な意見交換を行いました。

本市をとりまく社会経済環境についての共通認識を確認した上で、小西会頭からは、「地方創生の主役は民間であるとの認識を持ち、当市を元気なまち・夢あるまちにするためにオール舞鶴で、当所も全力をあげる」との発言があり、多々見市長からは、「皆さんに是非とも頑張ってもらいたい。そのための条件づくり・環境づくりは、私たち行政が創る。何でも言ってきて欲しい。皆さんの知恵とアイデアを聞かせてほしい。必要なこと・出来ることは骨惜しみせずやる」との力強い発言をいただきました。

#### 京都府への要望活動

同日12月27日、瀬川専務理事、西村課長が京都府中丹広域振興局に中村敬二局長を訪ね、山田知事と中村局長あての「要望書」と「部会別要望リスト」を手渡しました。

当日は、中村局長のほか、柴田農林商工部長と真下商工労働観光室長も同席され、瀬川専務理事が要望趣旨の説明をした後、自由懇談をいたしました。

中村局長からは、「要望趣旨については至極まっとうなものであり、同感である。山田知事にも地元経済界の意向としてしっかりと伝え、今後の京都府政とりわけ商工施策に活かしたい」、また、「大型クルーズ客船でやってくる観光客をもっと街なかへ呼び込む工夫があるのでないか。街なかへの回遊を促すため観光案内を充実させる。そして、食べる、観る、買う、楽しむ・・・もっともっと地域資源を活かした“おもてなし産業”を育てるべき」とのコメントをいただきました。